

# 発熱がある場合



## ◎麻黄湯+越婢加朮湯

(まおうとう) (えっぴかじゆつとう)

熱はあるが汗をかいていない場合に使用します。

## ◎桂枝湯+麻杏甘石湯

(けいしとう) (まきようかんせきとう)

汗をかいたらこの処方に変更します。

熱は原因ではなく、あくまでも結果です。「熱を下げれば感染症が治るのではなく、感染症が治ってくれば、発熱は改善する」ということです。

解熱鎮痛剤で、無理矢理解熱する前に、自己の免疫を引き出す治療を行った方がよいということです。

# ワクチン接種後の発熱、倦怠感、消化器症状の予防



## ◎補中益気湯

(ほちゆうえつきとう)

コロナの予防で紹介した漢方ですが、ヨロヅマワクチンを主体とする新型コロナウイルス・ワクチンの副反応の予防にも効果があるようです。

ワクチン接種も現在3回目を順番に行っています。1回目、2回目に副反応が強く、3回目は受けたくないという方も少なからずおられます。当院の職員でも何人かに相談を受けました。そんな時に、補中益気湯をワクチン接種2週間前ぐらいから内服するとういようです。全く副反応が出ないわけはありませんが、かなり症状が軽減したようです。

一八〇〇年の歴史ある漢方薬は、決して飲みやすいお薬ではありませんし、直接ウイルスを攻撃する薬ではありませんが、ウイルスにやられて命を落とすことがないように、免疫力を引き出してくれます。これからしばらくはコロナウイルスの時代が続くかもしれません。上手くコロナウイルスと共存していくためにも、人類が長い年月をかけて育んできた漢方薬という宝物を効果的に使っていただければと思います。

### 参考資料

『国立感染症研究所 感染症情報センター インフルエンザ・パンデミックに関するQ&A』 ↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓

『厚生労働省 データからわかる新型コロナウイルス感染症情報』(2022年3月19日版) ↓↓↓↓↓↓↓↓

『新型コロナと速効！漢方』(青春新書プレイブックス：2021年9月16日初版)井齋 偉矢(著)

